

閉会挨拶

大井川宏之

日本原子力研究開発機構 理事



本日は、原子力機構先端基礎研究センターの設立30周年記念式典にご参加いただき、まことにありがとうございます。また、ご来賓の皆様、特別講演をいただいた村山先生にも、篤く御礼申し上げます。

また、本日は、近隣の高校から多くの高校生の方々にもご来場いただき、活発に質問もしていただき、大変良かったと思います。高校生の皆さん、いかがでしたでしょうか？

原子力科学技術は、発電への利用だけでなく、様々な可能性を秘めています。まだまだ、人類は、原子や原子核や素粒子が持つ可能性を十分には理解できていないし、十分に利用できていないのではないかと、私は日ごろから思っています。

先端基礎研究センターでは、スピンのような、トポロジーや、ウランを超える重い原子や、様々な同位体（元素は高々100種類程度ですが、原子核の種類はその10倍以上）など、多くの分野で、最先端の研究を行い、成果を挙げています。それらの中には、すぐにでも世の中の役に立ちそうなものもあれば、人類の役に立つには数十年はかかるだろうといった原理の探求といったものもあります。

1932年チャドウィックが中性子を発見し、7年後（1939年）に核分裂が発見され、さらにその3年後（1942年）にフェルミが連鎖反応すなわち原子炉を実現して見せたように、わずか10年程度で急激な進歩が起こることが時としてあります。このような時のため、しっかりと基礎を固めておき、多方面の知見を集約し、ブレークスルーが起こる環境を整えておくことが基礎研究の重要な役割だと思います。

先端研が原子力機構にある意義は、やはりそのような先端科学技術を、原子力の課題解決やエネルギー問題の解決に役立て、そして、もっと他にもある可能性を追求し、それを世の中の役に立てるためだと、私は考えています。

今日、この式典に来てくださった若い皆さんが、こういう先端研究を世の中の役に立てることを夢見て、大学などで研究に携わり、いつの日か、一緒に研究できる日が来ることを願っています。

そのためにも、先端研の皆さんには、是非、高い成果を挙げ続けていただきたい。また、OBの方々、他の大学や機関の方々には、引き続き、先端研及び原子力機構に対しまして、ご支援・ご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。私の閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日は、まことにありがとうございました。